

火山見学再開



2月28日、阿蘇観光の要である阿蘇中岳第1火口への立入規制が解除されました。

火口見学の再開は、平成26年8月30日に噴火警戒レベルが2へ引き上げられ、火口半径1^キ圏内の立入が規制されて以来約3年半ぶり。

待ちに待った規制解除の当日は、濃霧規制により終日火口見学ができませんでしたが、火口見学再開のセレモニーでは、周辺の自治体や観光関係者、多くの観光客などが集まり喜びに湧きました。

3月3日には、孤立型微動(阿蘇山特有の火山性地震)が多いとして残念ながら火口見学が自主規制されましたが、これはより安全に火口見学を楽しんでもらうためのもの。事故が起きないように万全の態勢でお客様を迎えています。

阿蘇中岳第1火口は、長年の研究や厳重な監視によって噴火予測の精度が向上しています。しかし、活火山である以上油断は禁物です。これからも、自然の恵みと人々の暮らしとの調和を図りながら火口と共存していかなければなりません。



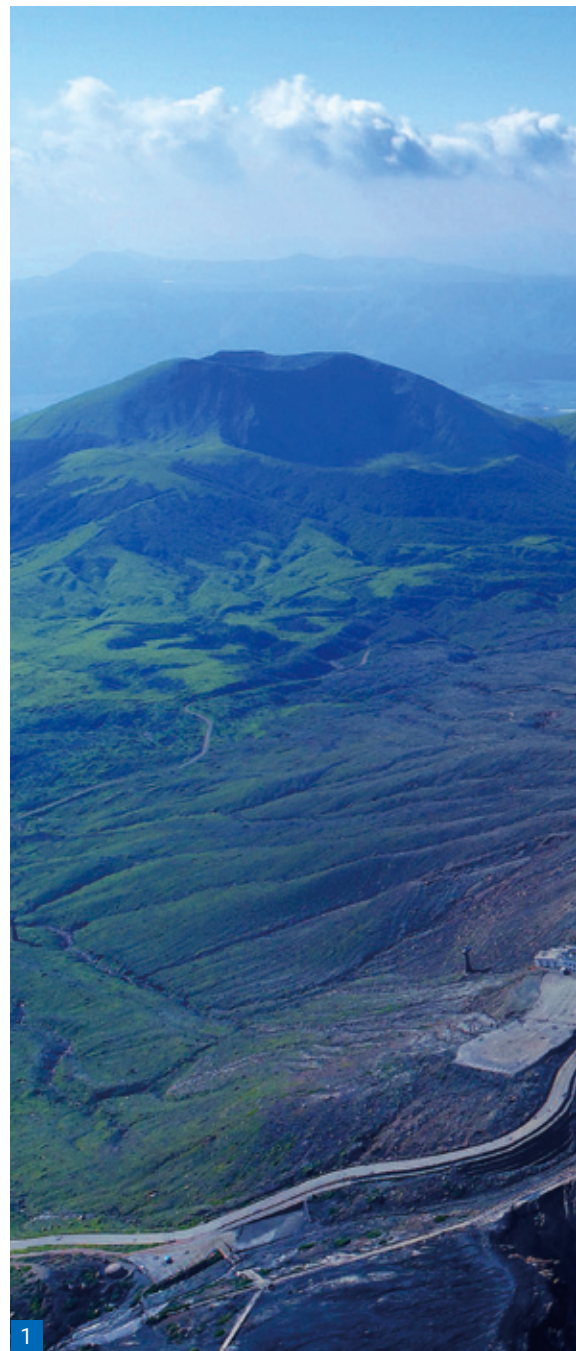
2



3



4



1

中岳火口立入規制から規制解除まで

H26.8.30	噴火警戒レベル2に引き上げ 阿蘇中岳第1火口の半径1km立入規制開始
H26.11.27	22年ぶりにマグマ噴火
H27.9.14	噴火警戒レベル3に引き上げ
H27.11.24	噴火警戒レベル2に引き下げ
H28.10.8	36年ぶりの爆発的噴火 火口周辺の転落防止柵やガス検知器等が破損 噴火警戒レベル3に引き上げ
H28.12.20	噴火警戒レベル2に引き下げ
H29.2.7	噴火警戒レベル1に引き下げ 火口周辺施設が復旧してないことから火口立入規制継続
H30.2.26	阿蘇火山防災会議協議会が規制解除を決定
H30.2.28	阿蘇中岳第1火口の立入規制を解除



5

1. 阿蘇中岳第1火口(H29.8撮影)
2. 阿蘇中岳火口見学再開セレモニーでのテープカット
3. 見学再開で喜びに湧く観光関係者
4. 火口を望む観光客
5. 火口見学の安全を祈願

火口見学の安全対策

火口見学の条件

壮大なスケールの火口を間近で望むことができる阿蘇中岳火口では、観光客が安心して見学できるように安全基準を設けています。

火口は、噴火警戒レベル1の状況下で天候や火山ガスの濃度、火口周辺の変化など、一定の条件を全てクリアした場合のみ見学が可能です（下図参照）。

見学中でもガスの濃度が上昇した場合などは、即時に見学エリアを制限し、火口監視員が安全な場所まで避難誘導を行います。

厳重な監視体制

中岳火口周辺は福岡管区気象台や京都大学火山センターによって24時間体制で監視されており、火山の変化をいち早く捉えることが可能となっています。

これにより、火口周辺に異常が見られた場合は、即時に厳重な立入規制を行い、噴火に対する人的被害を防いでいます。

火口周辺の安全設備

平成28年10月の爆発的噴火によって、火口周辺の安全設備は大きく破損しました。今回の火口見学再開のために火口監視所や転落防止柵、ガス警報装置、退避壕などの修復を行い安全対策を講じています。



修復した転落防止柵

阿蘇山の噴火警戒レベルと立入規制

予報警報	レベル	火山活動の状況	火口周辺への立入規制内容と発令基準		立入規制区域
噴火警報	5	避難 居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある	登山禁止	爆発により災害が発生または発生する恐れがあるとき。	噴火によって影響が認められる居住地域
	4	避難準備 居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される			
火口周辺警報	3	入山規制 居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす	2次規制	噴火警戒レベル3が発表されたとき	火口から概ね半径4km圏内
	2	規火口周辺 火口周辺に影響を及ぼす	1次規制	噴火警戒レベル2が発表されたとき	
噴火予報	1	活火山であることに留意 火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出などが見られる。	自主規制	1. 濃霧により火口までの通行が危険であるとき。 2. 有毒な二酸化硫黄を含む火山ガスが人体に影響を及ぼす濃度(5ppm)を超えたとき。 3. 火山活動状況に変化(火山性地震の回数増加や地面の伸び)が見られたとき。	火口から半径1km圏内
			規制なし		火口見学が可能

噴火時の対応

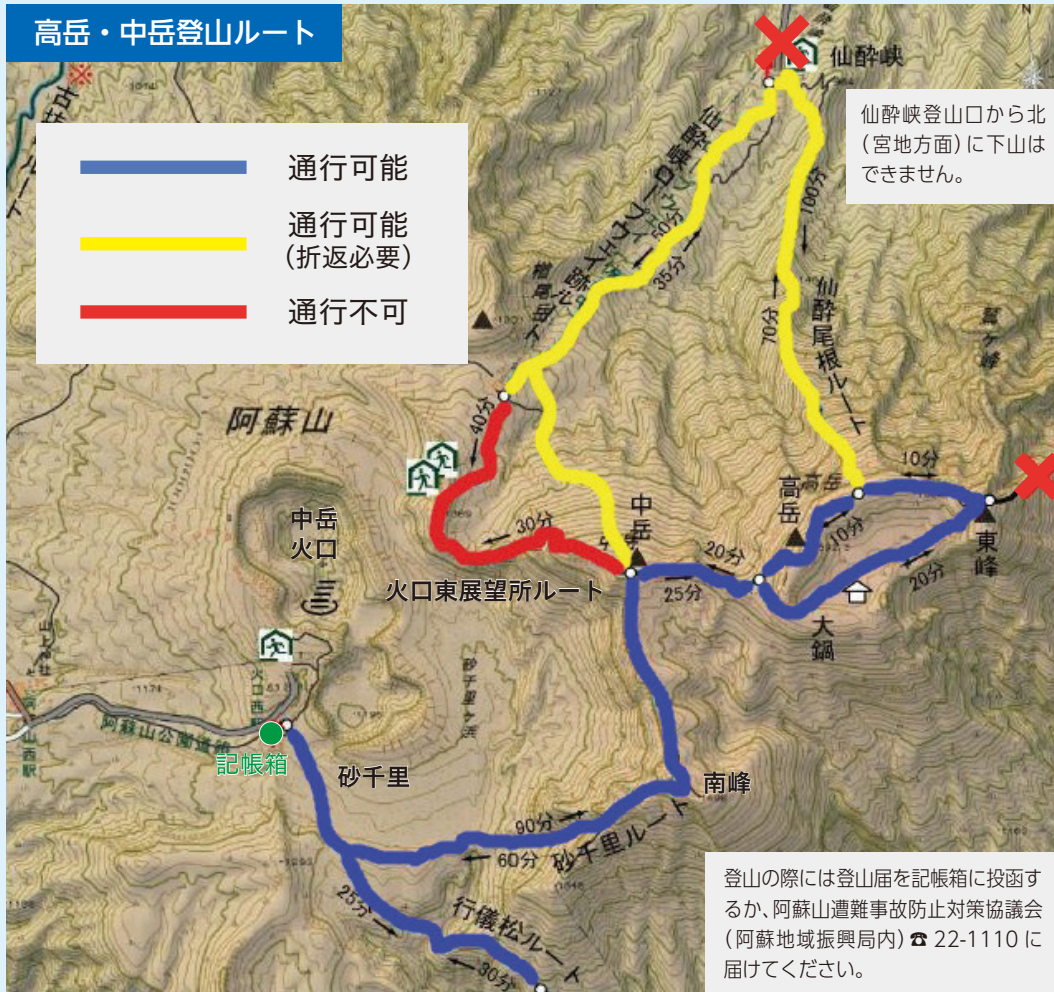
市や消防、自衛隊、日赤など関係機関と連携して噴火を想定した防災訓練を毎年1回実施しています。万が一噴火した際にも迅速な対応ができるよう、火口監視員は救助活動や避難誘導、関係機関への伝達など訓練を行っています。

さらなる安全対策へ

阿蘇中岳火口では、平成10年の火山ガス検知器設置以来1件の事故も発生していません。また、この3年半の間に数回の大規模な噴火が起きたにもかかわらず1人のけが人も出していません。これは、専門機関や防災機関の連携の成果ではないでしょうか。

阿蘇山は活火山です。各地で火山事故が増えつつある中で、引き続き見学者の安全を第一に考え、今後安心して火口見学が継続できるように万全の態勢で臨みます。

高岳・中岳も登山可能に



登山愛好者に朗報

中岳火口周辺の立入規制解除によって、高岳・中岳の登山も可能となりました。阿蘇山は日本百名山にも数えられており、阿蘇五岳の最高峰である高岳登山の解禁は登山愛好者に朗報となっているようです。

立入規制と通行禁止のルート

登山は解禁になったものの、火口周辺への立入規制がかかった場合は火口見学と同様に高岳・中岳の登山ができなくなります。

また、仙酔峡へ下るルート(上図の黄色)は通行可能ですが、仙酔峡〜宮地方面へ抜ける市道仙酔峡線が地震により全面通行止めのため折り返す必要があります。同じく宮地方面(仙酔峡登山口)からの登山もできませんのでご注意ください。

中岳火口を望む東展望所登山ルートも現在通行できません。